

CIS における REST データ ソースの JSON から表形式への変換

目次

[概要](#)

[データの変換](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Information Server (CIS) 内で JavaScript Object Notation (JSON) 形式のデータを表形式に変換するための基本手順を説明します。

データの変換

Representational State Transfer (REST) データ ソースは、Web サービスから JSON または XML 形式でデータを取得します。データが JSON 形式であり、表形式に抽出可能な場合は、JSON データを XML 形式に変換できます。その後、CIS の表形式に変換するため、eXtensible Stylesheet Language (XSL) 変換機能を使用する必要があります。

REST データ ソースの JSON 形式のデータを表形式に変換するには、次の手順を実行します。

1. Studio をバージョン 6.2.3.00.22 パッチ以上にアップグレードします。これにより、新機能である **Design by Example** を利用できるようになります。この機能では、JSON 出力を表形式出力にマッピングできるようにする XSL Transformation (XSLT) プロシージャのスキーマを容易に取得できます。
2. REST データ ソースの作成時に、[JSON Format] チェックボックスをオンにします。

注: 次のステップは、データ ソース作成時または作成後に実行できます。

3. REST データ ソースをすでに作成している場合は、パネルで Header および Body パラメータ定義を見つけ、現在のパラメータ定義をすべて削除してから保存します。
4. [Design by Example] をクリックします。すでに作成されている場合はオペレーションビューに移動します。
5. JSON 構造の最上位要素 (一般にリストの最終行) を選択し、[OK] をクリックします。

6. パラメータに名前を指定し、[Save] をクリックします。

これにより、XML スキーマ定義セットが作成されます。この定義セットはデータ ソース リソースに表示されます。

これにより、JSON 出力が XML に変換されるため、XSL 変換機能で処理できるようになります。オペレーションを開き、出力構造を確認します。これは、XSLT プロシージャで使用される構造を示します。

7. JSON 出力を XML 形式に変換するためのオペレーションを実行します。

8. 新しい XSLT を作成し ([New] > [Transformation] > [XSLT Transformation])、REST データソース オペレーションにバインドします。

9. 表形式データで使用する列を選択し、XSLT を実行します。